

まだ小さい子ども達のことであるから斯うしてまくのよといふ様にやつてみせて、種子をみんなに少しづつわけてどの子どももまくやうにする。又自分の鉢、自分の庭を持たせることはよいことであるから組の庭の他に銘々のを持たせやう。都會地で庭のない所では木箱でしやう。何月何日に何の種子蒔きをしたかを黒板のすみででも書いておき、又毎日子どもと一しよに水をやつたりして氣をつけ、芽が出た日や葉がどう出た時などみんなに知らせて注意するやうにする。

### 近所のお宮

天長節、靖國神社例大祭があるこの頃、近所のお宮では聖壽萬歳を祈り、皇軍武運長久祈願が行はれる。一日子ども達と一緒に詣りしやう。身をきよめ神前に額く作法を教へ乍ら祈る。その言葉は本誌二月號倉橋先生の御記事にあるやうにし度い。

## 談話

### 志村貞子

#### 桃太郎、花咲爺、舌切雀

一年間、或は二年間、心をこめて慈しんできた子供達が入園當初とは見違へる程大きく、立派になつて、間もなく國民學校へと集立つて行きます。子供達の新しい門出にあつて、その前途の限りない幸福を祈る先生方の御心持は、亦同時に、四月から新たに授けられる子供、新入の園児達への種々細やかな御心づかひになつて現れて来ることと思ひます。誠に有難いことです。皆様之行届

いた御心遣、御準備に對して今更私のやうな者が存じますが新入園児を迎へての「おはなし」に就いて考へてみようと思ひます。

幼稚園の「おはなし」は先づ「おはよう」の御挨拶に始ります。と申しますのは、「おはなし」は言葉の生活であるといふことです。また同時に心の交流であるといふことです。

「靖子ちゃん、お早うございませう」

「次郎ちゃん、お早う、こちらへいらつしやいな」

「先生、お早うございませう」「おや、お早う、随分お早いおね」

ニコニコ笑ひながら言ふ子供、元氣よく大聲で言つて飛びついて来る子供、部屋の入口できちんと御辭儀をしていふ子供、いづれにしてもよく來ましたね、お早う」と迎へる先生の心持に變りはありません。「おはよう」といひ、「おはよう」と返す心からの朝の挨拶。先生と子供との心の暖い交流です。先生への親しみ、幼稚園への親しみはこゝから始まるのではないでせうか。「おはなし」はこの「おはよう」のやうに、私共が、子供達が、日常行つてゐる平凡な言葉の生活です。平凡ながら、豊かな、暖い生活です。子供同志の話、先生と子供との話、きかせたり、きいたり生活です。平凡なことですが、多くの子供達の中にはこの「おはなし」の中になか／＼入れない子供も居ります。すべての子供に豊かな「おはなし」の生活を享けさせるためには、先生の細かな心遣ひとたゆみない努力が必要でありませう。この「おはなし」、平凡ながら、深く、深い言葉の生活についてこゝにそのすべてを述べることが出来ません。こゝでは、その中の極めて限られた部分、即ち、先生が話して聞かせる「お話」について考へてみませう。

子供に聞かせる話と限りますと、先づその材料を選ぶことが大切な事柄です。それについて種々心すべきことがありませうが、こゝでは便宜上、充分な注意を以て選ばれてゐる日本幼稚園協會發行の「改訂版系統的保育案の實際」によることに致しました。これによりますと、四月の保育案には談話として「桃太郎」「ゴキッ」「富子さんの風船」「國旗の話」「白兔」「大きな球のはなし」「舌切雀」「猫のお見舞」「コロリ爺さん」「花咲爺」「平三さん」「樺三さん」「牝鶏と猫」「天長節のお話」「靖國神社の話」が選ばれてゐます。この一つ一つに就いて述べることは紙數も許しませんので、こゝに「桃太郎」「舌切雀」「花咲爺」の三大童話を取り上げてみませう。この中、「舌切雀」と「花咲爺」は人形芝居として扱ふやうになつて居りますが、こゝではその前の形、童話としてのそれについて考へることにします。

「桃太郎」「舌切雀」「花咲爺」といへば、私共が子供の頃、母や祖母からたび／＼聞いた懐かしい話です。それは、今の子供達にとつても同様、お父様、お母様から繰返し話していただいた親しみの深い、お話です。桃太郎さんも、犬も、猿も、雉子も、雀も、お爺さんも、皆、子供達の仲よしのお友達なのです。この子供達に極く親しい、今迄に聞いてよく知つてゐるお話が保育案の中に、四月のお話として三つながら、すべて取り入れられてゐるといふことは、大體意味のあることだと思ひます。「太郎さんのやうに元氣で強い桃太郎さんのお話をしませうね」といへば、もうお話をものがびつたりと子供達と一つになつてしまひます。「知つてるよ／＼」さう、一郎さんは誰方にお話していただいたの」「僕

お母様」「私はお祖父様よ」とこゝでお家の方々が生とのおはなしの中に出て來ます。子供達にとつて最も親しいお家の方々のお話をするのがどんなに嬉しいか、どんなに無口な子供の口を、心をほぐれさせるかは御經驗深い皆様のよく御存知のことと思ひます。また兎角埋れがちな子供の發表力を正しく發展させてやる援けにもなりませう。つまり、先に述べました「おはよう」が先生と子供との心の交流となりませうやうに、桃太郎さんを通じて、雀を通じて、子供との言葉の生活、心の交り、親しみが深められるのです。それは、僕も、私も知つてゐるお話だからです。それを先生が話して下さるからです。

桃太郎の話は明朗、潤達、而も優しい我が國民性のよくあらはれた話です。この話の構想が日本國民古來の性情を表現してゐるのみならず、この性情を根底とする、話そのものゝ構成もまたすぐれてゐると思ひます。即ち第一に、生々とした變化に富んだ筋の運び方です。強い線でくつきりと描き出されてゐる一巻の繪巻を見るやうな感じがします。ですからこれを話す時は、單純に端的にぐん／＼と線を強くすゝめることで、敘景のくだ／＼しい描寫のための修飾的言辭等で筋の運びをこはさぬことが肝要だと思ひます。第二に、この話のもつリズムの味です。全體を通じてのリズムは筋の運び方の緩急よろしきを得るところにあると思ひます。更に細部のリズムについていへば、例へば、「向ふから桃が流れて來ました」でもわかりますが、「向ふの方から大きな桃が、ドンブラコッコ、スッコッコ、ドンブラコッコ、スッコッコと流れて來ました」といへば心地よいリズムにのつて、本當に大きな桃が

流れて来るやうではありませんか。否、先生自身、子供自身、桃になつて流れてさへ來られるのです。また、犬、猿、雉子が順々に出て來て、「桃太郎さん、桃太郎さん、お腰につけたものは何ですか。」「日本一の黍團子。」「一つ下さい、おともをします」といふ繰返しのリズム等も忘れてはならないところだと思ひます。第三に子供の豊かな想像力に強く訴へる點です。これは桃太郎に限られた事ではありません。多かれ少かれ、童話の持つてゐる特異性です。味であり、潤ひであります。中でも桃太郎には、子供の持つ空想性が、アニメズムが、實に自然に、生かされてゐると思ひます。ところが、これを話す人が、この子供の想像力の世界に入り得ない時は、たとへ如何に上手に話せたとしても、それはこの話としての眞實性(事實としての眞實でなく)に於て缺けるものとなり、その空虚さは、子供の心に映らずにはゐないと思ひます。話し手は、話を知るのみでなく、自らの心によく感じ、子供の心に合致し得る大人でありたいと思ひます。桃太郎の話は我國古來の童話の中で最も氣宇の宏大なものです。この話によつて、明るく、強く、而も親しみ深い優しさをもつ桃太郎の性格を子供達に感得させるのが主眼點ですが、それは子供自らに任せて表に立てず、押しつけがましくなることは避けるべきだと思ひます。

花咲爺の話は、よいお爺さんにおいて、善良な、素直な、そして樂天的な日本人の性格の一面がよく表はされてゐます。また枯木に花を一面に咲かせるといふ點等、日本の風格のあらはれとして注意すべきであります。この話は、二人のお爺さんを登場させて、善人と悪人の行動と、その結果とを對照的に扱つてありま

すから、勸善懲惡を主題としたものであることは明らかであります。けれども子供には、よいお爺さんには結局幸福が惠まれ、怨の深いお隣りのお爺さんは懲しめられたことを自ら感得させるにとどめ、「だから悪いことをしてはいけませんよ」等と話のおちを教訓的な上味でぬりつぶしたくはありません。この善惡といふことに就いて考へますと、人間の本性として善、若しくは向善性を考へ、悪い人も、(といふより善くなれないのである人も)善への憧憬は持つてゐる。その善性、向善性がたま／＼或る事件によつて覺醒され、「後悔しました」「善い人になりました」といふ結果を、勸善懲惡の意味に於てとなく齎らしたものです。こゝから舌切雀のお婆さんについても同様のことが言ひたいのです。なほ、子供の恐怖心を刺戟するやうな怖い話は避くべきだと思ひますから、お婆さんの葛籠の内味もお化けでなく改めたいと思ひます。

更に、保育案には取り上げられておませんが、猿蟹合戦の話が、

ヨミカタ二の七に「サルトカニ」として收められてゐるのを見ますと、親蟹が猿に柿を投げつけられて死に、子蟹が仇を討つて猿を殺したといふ點を避けて、猿が悪かつたと謝つたといふやうに改めてあります。即ち、

サルハジブンバカリタベマシタ。シマヒニ、青イ柿ヲカニニ

ゲツケテ、イツテシマヒマシタ。カニハ大ケガラシマシタ。

(二七頁—二八頁)

と、大ケカといふ言葉を用ひ、また、

ミンナデ、サルヲコラスコトニシマシタ。(二八頁)

と、あつて、仇討なる言葉はありませぬ。最後は、

サルハ、ジブンカワルカタトアヤマリマシタ。(三〇頁)

となつてゐます。國民學校に於ける教材としての「サルトカニ」の扱ひ方は幼稚園のお話に於ても大いに注目すべきことだと思ひます。

以上、具體的なお話の例を二、三に限つてとりあげましたが、幼児に適當な話を選んだならば、どの話をするにしても、先づその話を自分のものにするのが第一だと思ひます。自分のものにするとは、話の筋を知り、それを明確に記憶することのみではありません。話そのものを自分の心に感じることです。さうすれば、話の文章に左右されることなく、自分の言葉として、熱を以て、最も適切なリズムを以て、端的に話すことが出来ませう。かうしてなされたお話は聞く子供の心の眞實に觸れ、子供の心を培ふと共に、話し手自身の心も培はれてゆくものだと思ひます。

### 幼稚園の手法の導き方

## 及川ふみ

幼稚園はすべて幼児の天地である、朝登園してお歸りまで相當に長い時間をあきる事なく、楽しく、面白く、遊びつゞけてゐるのである。定められた保育事項を、この間に巧みに組み入れて、より楽しく、より面白く遊ばせるところに保姆その人の手腕のふるひ所があるのであらう。様々の保育事項をただそれだけの保育事項として形式的にのみ配列して保育案をたてるのは最も簡單なものであるが幼児たちの立場から考へると誠に不親切なやり方と

いふのであらう。滋養の多い食物も調理の方法によつて一段と養價を増大するものと、又あべこべにその効果を半減するものが出来るわけと同じやうな事であらう。

唱歌、遊戯、お話などの保育項目は、それ自體が幼児たちに、はたらきかけるものである。幼児たちはこの興味の中にひきつけられて面白くなるのであるが、手法の方はこれ等と反對に幼児自身が積極的に作るものであるからその指導法についても餘程留意して幼児自身の興味といふ事を考へなくてはならない。外部から受ける事項のみ多いこの保育項目に對し、自分から作り出す力を本體とした手法はその効果の大きさと比例して、その指導法も亦簡單ではないのであらう。

### 一、物を作る興味を養ふ事

大人の場合にもよくある事であるが、他人のする仕事を見て、仕事の興味をひきおこす事が大切なことである。仕事をする人は外から見たところではわからないところに苦心するところもあり、工夫するところもあつて、仕事を傍觀するものゝ様に興味にのつてしてゐる時ばかりではないが、とにかく他人が仕事をしてだん／＼に出来上つてゆく道程を眺めてゐる事は面白いものである。手近いところでは幼稚園では保姆や、年長組の幼児たちの作る様々の製作をしばしば観察させることである。

### 一、簡單な製作物をつくる事

幼児の製作程度を考へて、簡單に作れるものがよい。興味をもつて作りかゝつても製作が複雑である時は途中で興味がなくなるばかりかこれなれいとふ様になる。ことに新入幼児たちの製作に對